

アマダイ通信NO.61

(Tile fish network letter)

07年糧咲く

知人・友人各位

本通信もお陰様で“還暦”を迎え、臆面もなく勝手なものを送りつけ、などと思いながらも、人生同様、今号から再スタート。宜しくお願い致します。

身も心も元気でいられるのは、あと10年かな？15年かな？若い時は人生の残り時間なんて考えもしなかった、などと思いながら、逆に、子育ても終わり、ようやく経済的に多少ゆとりもでき、時間も比較的自由に使えるのだから、多少とも人のため役に立ち、自分も楽しみたい。残りの人生を、皆さんと共に更に充実したものにできればと思います。

小野寺君、住友不動産社長に！

三鷹寮大先輩の高島社長（昭和26年入寮）の後を受け、能代高校同期で五能線通学仲間の小野寺研一君（隣の青森県岩崎村出身）が、この度の株主総会で住友不動産社長に昇任。高校時代、🐟にとって彼は目標であり、良きライバルでもあった。現役の時は共に東大文科類を受け、一緒に駿台予備校中山寮へ。二年目は何故かダークホースの🐟が赤門をくぐり、本命の小野寺君は稲門をくぐる。

数年前、住友不動産の案件を攻め倦む高橋カーテンウォールの意を受け、高島先輩に面会、業界トップの高橋のPCカーテンウォール（コンクリート製外壁パネル）を売り込む。シェアトップの高橋の品質・価格競争力もあいまち、以降、住友不動産の多くの高層ビルの外壁のお手伝いを高橋でさせていただく。

高島先輩に面会、技術面の責任者もご紹介していただき、いい感触を得て、多少高揚した気分で新宿NSビルのエレベーターホールに立つと、目の前に見覚えのある顔。小野寺君ではないか？🐟から声を掛ける。駿台で別れて以来の再会。学生を十年以上続け、その間に学生運動で7回警察に捕まり、足掛け3年中野刑務所で未決拘禁、40歳でサラリーマンを始めるまで受験業界でフリーター、50歳でサラリーマン失格で営業顧問業開業と、ジグザグの人生を歩んだ🐟。その間、順調にサラリーマン社会の階梯を歩み、トップに登りつめた小野寺君。人生は糾える縄の如しだ。

以来、高校の東京同期会を住友不動産直営のレストランで年二回ほどやり、千葉の泉カントリー等で同期生ゴルフも年数度。仕事でも色々お手伝いさせていただく。住友不動産初の生え抜き社長として、小野寺君の大活躍を期待したい。

鉄橋渡ると僕の家が見える！

日本海の青海原を背景に、古びた鉄橋を渡るビュートレイン「リゾート白神」をあしらった、五能線のポスターをJR駅頭でご覧になった方も多いと思います。あの鉄橋を渡ると僕の家があります。明治時代、五能線開業時に作られた小入川鉄橋は一時東北一の高さを誇り、車窓から日本海の絶景を毎日眺め、中学、高校と通学。高校時代、小野寺君は白神の山が日本海に雪崩落ちる県境の難所を越えた青森県の岩崎駅から五能線に乗り、🐟は秋田北端の岩館駅から乗車。一時間ほど、読書に勤しむ者もいれば、勉強を教え合う者も。

おしゃべりに興じ、時に恋も芽生えと、舟木一夫の「高校三年生」のように、楽しい高校生活。

我が家は五能線の盛土の脇にある、というより我が家の敷地を二分して五能線が走る。海側に自宅と郵便局があり、山側は畑。登校前に線路の土手に家畜小屋から家畜を出して木につなが、帰ると又、小屋に入れるというのが🐬の日課。郵便局長の親父が物好きで、村の世話役として山羊を飼って乳を搾り栄養を改善、羊を飼って毛糸や生地を自足するという、生活改善運動の旗振り役をし、我が家で率先垂範。そのため、村で1頭だけの気の荒い雄山羊と雄羊がいて、扱いははてこずる。冬はその土手で毎日スキーを楽しむ。

寒村で牧歌的な生活をしてきた野生児🐬ですが、何故か間違っって東大に入って、人生が大きく狂う？そんな🐬に40年振りに後輩ができる。隣の峰浜中学出身の渡辺君がこの春文科三類に現役入学。旧峰浜村からは初めての東大生。今春、八森町と峰浜村が合併して誕生した八峰町としては40年振り5人目。一緒に渋谷で鮎をつまみ歓迎。かつては、能代高校からもコンスタントに毎年一人は東大に受かっていたのだが、この二、三年は0。指導のレベルが下がったか？もっとも昔も指導といえるほどのものはなく、生徒が勝手に勉強していただけですが。

ヴェートレイン「白神」3往復、岩館駅停車に！

乗ってみたいローカル線として人気の高い五能線、日本海と白神の山の間絶景を、全席指定の展望列車が走り抜けます。人気の高さに今年から一往復増やして、三往復に。そして終に、岩館駅にも停車することに。🐬が春秋には学校から帰ると鞆放り投げる間もなくアイナメ釣りに走り、夏には朝から日が暮れるまで潜って、サザエや鮑を獲った日本海で磯遊びしたり、海の幸を楽しめます。

西村京太郎の推理小説の舞台によく使われ、テレビドラマにも時に登場する、ミステリートレイン「白神」。岩館ではどんな事件が皆さんを待っているのでしょうか？故郷の観光案内を同封します。（「体験センター」<http://www.akita.taiken/>他）

DOWAの能代港利用進む、試験荷揚げで千ト余（北羽新報より）

リサイクルポートに指定された能代港で5月22日、汚染土壌の荷揚げ作業が行われた。環境関連事業を手掛けるDOWAホールディングス（旧同和鉱業）グループのDOWAエコシステムによる試験的荷揚げの2回目で、1046.26トが荷揚げされ、大館市内の認定浄化施設に搬入された。同社は、汚染土壌浄化や廃棄物処理、資源リサイクル事業を手掛け、汚染土壌は青森港と船川港で荷揚げしている。県北部エコタウン計画と連携した能代港の利活用を探ってきた市は、能代港、高速道無料区間を利用し認定浄化施設のエコシステム花岡（大館市）に搬入するルートを働き掛け、1月31日に初回の荷揚げが実施された。

2回目の今回は、大阪港で積み込まれた鉛を含む48.22トと、トリクロロエチレンやシス-1、2ジクロロエチレン、フッ素を含む998.04トの合計1046.26ト。21日に1万5千ト岸壁に入港し、22日に荷揚げ。前回同様に汚染土壌はフレコンバッグの荷姿で、クレーンやフォークリフトでトラックに積み込まれ、荷台をシートで覆うなど、飛散防止策を講じ、順次運び出された。半数以上がエコシステム花岡に直送され、残りは屋根付き倉庫に搬入、一時保管後、陸送し、25日までには能代市区域からの搬出が終了した。

能代港は昨年12月、リサイクル産業の新規立地促進や施設整備など国の支援策を受けられる総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）に指定されており、地元産業界を中心に期待が寄せられている。一方、市民の中には安全性に対する不安や懸念もあり、市と同社は、試験的荷揚げを実施するに当たり、「地域住民の安全と安心を確保する方策について確認するため」、同社から市への情報提出、市から市民への情報開示、荷姿、こぼれ落ち・飛散の防止、見学の受け入れなどを取り決めている。（以上、地元紙「北羽新報」より）

当初、1月下旬から2月下旬にかけて3回程度を予定、問題点を整理し本協定を結ぶ筈でしたが予定より遅れ、今回は未定。市民感情への配慮から、万全を期し、慎重にことを運んでいることが伺われるが、一回目で安全が確認されたからか、今回は見学者も少なかったようだ。原料鉱石、廃携帯等の都市鉱石、汚染土壌と、DOWAが扱う全てが運ばれ、安全が確認されたことになるが、DOWAによる早期の能代港の本格的な利用と、能代港の整備が待たれる。とりわけ、コンテナ船用の施設の整備が必要である。🐞がDOWAの吉川会長に先日面会した際、屋根付きのストックヤードの建設に言及されていたが、同社の能代港利用が故郷、能代山本の環境産業都市への飛躍の機会になればと思う。

白神の紅葉のブナ林散策と茸狩・田舎の学校再び故郷へ！

十月13～14日（土・日）、都内で農家と提携し農業を教える「田舎の学校」が、昨年の初夏に続き、秋たけなわの白神山地を訪ねます。13日に大館・能代空港8時35分着ANA一便で羽田を発ち、4百年ブナのある原生林・岳岱自然教育林（白神山地の核心地域とほぼ同じ生態系）をガイドの案内で散策。能代市内で昼食後、風の松原と能代港周辺観光。八峰町のハタハタ館に宿泊、山海の幸を味わいます。2日目は、昨年岩館郵便局長を辞め山三味の田舎の兄が、山菜・茸狩を案内します。昼は茸の郷土料理、午後は紅葉の真瀬川で鮭の遡上観察等を楽しみます。費用は3万6千円（非会員：1泊4食・現地交通費・ガイド料込み）。詳細は田舎の学校事務局（03-5456-1362、e-mail: inaka725@minos.ocn.ne.jp <http://inaka.spo-com.ne.jp>)へ。

癌はアルコール消毒が効く？鈍感力の賜物？・阿川先生完治宣告！

五月連休明けに血液検査、翌週、三月に受けたCTスキャンの画像も見せて貰いながら、三楽病院の主治医の阿川先生の診察を受ける。血液検査、CTともに何の問題もないとのことで、あらためて先生から大腸がんの「完治」を宣告していただく。大腸癌は、術後無事5年経過すれば一応完治とされるが、一年早い完治宣告。

癌宣告されると一般的には、病院で受ける外科的治療や抗がん剤、放射線等の治療の他に、免疫力を高め、癌を克服しようと、サプリメント等を探し求めるが、🐞は殆ど何もしなかった。それどころか、土日を除きほぼ毎晩外で酒を飲み、アルコール分0.5%のノンアルコールビールを2～3本飲んで、休肝日と称している土日でさえ、たまには肝臓を休めなさいという、阿川先生の指示を破り、付き合いでまともにお酒を飲むこともしばしば。

休肝日もろくに守らずお酒を飲むことが、体にいい筈がなく、ましてアルコールで癌が消毒される訳でもあるまい。飲みたい時に美味しく飲む、体に悪いのだから絶対飲んではいけない！と決めて、無理に休肝するストレスから解放される「規範意識の鈍さ」、「鈍感力」が、取敢えずの転移、再発の防止に力を発揮しているのかも知れない！

二ヶ月で二キロ減量も血圧下がらず！栄養士に見放される！

三月の三楽病院の生活習慣病センターの診察で降圧剤をもらい、栄養指導も受ける。朝のベーコンエッグをハムエッグに、パンにつけるマーガリンはママレードに変え、麺つゆは飲まず、毎食野菜を食べる約束は果たす。更に昼は松屋の？牛丼よりは麺、カン水で塩分多いうどんより蕎麦を多くする、夜は脂肪の多い中華、焼肉よりは和食を増やす。二ヶ月後の次回までに、シャツとズボンをはいて76キロの体重を、二キロ減らすことに。

どうやって体重減らすか？栄養指導は尊重、自宅から最寄駅まで片道18分は自転車を捨てて歩き、夜の飲酒後のラーメン等の夜食は止める。体重は、朝の起床時に下着つけて72キロと、多少は減量が進むが、血圧は上が150前後、下が90前後と余り下がらない。担当医は朝1回の服用では24時間効果が持続しない、朝夕飲むようにしようというが、夜は忘れることが多いので1回にし、初歩的な降圧剤のプロプレス8ミリ錠から、カルシウム拮抗剤のオルメテック20ミリ錠に変える。

栄養指導もからめ手から攻められ、段々外堀が埋まって行くが、結局は飲酒の回数と量の問題。飲めばカロリー摂取も増え、ツマミも食べるので、塩分とカロリーが又、増える。栄養士さんの方も話すことがなくなり、栄養相談は止め、降圧剤だけもらうことに。わかってはいるけど止められない！結局は本当のところはわかっていなくて、事態が急展開して慌てて、その時は手遅れ？なんて馬鹿なことになるのだろうか？

インプラントの仮歯直ぐとれ

下の歯茎に埋め込んだチタン製人工歯根（インプラント）が、三ヶ月ほどで体の一部と化し？ようやく歯根のネジ蓋をドライバーで外し、歯形を採る。次回はつなぎの様な物をそれに埋め込むから、十万円持って来てと言われる。歯根二本埋めるのに50万、これで60万、人工歯根に人工歯を被せてあと40万円？上の奥歯も二本欠けてるから、上手く行くようなら、来年もインプラントを二本入れると百万円？子供の時の歯磨き嫌いを反省してる暇あるくらいなら稼がなくちゃ！少しは長生きして元取らなくちゃ！

歯周病で歯がなくなるとインプラントも難しいらしいから、虫歯で良かった！？と、その夜飲んでみると、被せてもらったばかりの十万円の？インプラントの仮歯がとれてしまう。仮歯だからいいけど、本歯被せて直ぐとれたりしたら困る。ちゃんと保証してくれるのか？民法の瑕疵担保責任は一年だけど、保証書書いてもらわなくちゃ。インプラント二本で百万円、軽自動車一台の値段だから、不安になる。

その後も二回、被せ直してもらおう都度、仮歯が取れる。仮歯はサービスですから、本歯はもっと強力なセメントでつけますからと、お医者さん。あれ？ネジのように埋め込むんじゃないかったの？接着剤でくっつけるんだ？と、一つ勉強する。

新しい旦那現る！花冷え仙台で水商売！

枝垂桜の綺麗な東北大で徳重事務局長、北村副学長・総長室長にお会いしていただく。札幌サンルートホテルや目白の椿山荘、国立西群馬病院等で好評の、電源開発の井戸水利用の専用水道システムの設置を提案。深井戸を掘り、水の浄化施設を作り、水を従量制で使って頂く。初期投資の費用とメンテナンスは電源開発が負い、大学は使った水の量に応じてお金を払うだけ。水不足の高度成長時代以来の、使えば使うほど水道料金が高くなる、

大口ユーザーに不利な水道料金システムを逆手に取り、使用する水の一部を公共水道から専用水道に切り替え料金を節約、公共水道と専用水道の、災害対応のツウエイシステムにすることで、公益にも貢献しようという訳だ。

大量の工業用水を地下から汲み上げていた工場が地方や海外に移転、地下水位が上昇、そのため東京や上野の駅ビル等は浮かないようにアンカーを打ったり、不忍池や目黒川に大量の地下水を流し、浄化に一役買っている。状況は変わったのだから、地下水利用規制を緩和してもよさそうなものだが、都内では新規の井戸掘りは原則禁止され、椿山荘のように古井戸のあるところはリニューアルして再利用できる。地層という自然が濾過してくれたミネラルウォーターを中空糸膜等で再濾過、塩素で殺菌、美味しい水道水を作る。椿山荘では立米4百円台の公共水道の一部10万立米を専用水道に切り替え、美味しい地下水を立米2百円台で供給、年間2千万円程度浮かせることに。

ヨーロッパでは古代ローマ時代から、水源地に井戸を掘り、都市に水を運び公共水道に利用するのが一般的で、美しい水道橋が各地で見られる。ロンドンやパリのように、河川水を利用するのは例外的だ。日本では阿蘇の豊富な伏流水を利用する熊本県は例外で、大枚の金をはたいて作ったダムに貯めた水質の悪い河川水を、これまた大金をかけて浄水場で濾過、末端の蛇口まで殺菌力を確保するため大量の塩素を投入する。これに対し、初期投資なしで、安全で美味しい井水を大学、病院、ホテル等の大口ユーザーに安く提供、併せて災害対応のツウエイの水道システムを作るのが、の新しい“水商売”。

新しい仕事と言えば、学生時代からの悪友、前田和男同文社社長に、大阪のゴミ収集業の若社長の応援を頼まれる。いい加減な業者が多い中で、信頼できる業者だから、売り込み先も建築営業と同じだからと、木村衛生の新築ビルのゴミ収集の仕事を応援することに。

黄龍死んで土と化し、飛び上がれず！

五月の連休、南アフリカツアーを申し込むも、娘が休み取れるから一緒に行きたいという。既に定員一杯で娘の分は追加できず、キャンセル料払ってキャンセル、中国九寨溝ツアーと一緒に参加する。

波乱の旅立ち、真夜中に成都着

連休初日の4月28日(土)2時55分出発予定のCA機の到着が遅れる。準備を終え、20分遅れで動きだすと直ぐ、落雷を伴う豪雨が襲う。駐機場に戻り、飛び立ったのは6時。初めての経験だ。波乱の予感がする。北京から成都への乗継ぎが心配になる。北京着は現地時間の出発時刻8時20分を過ぎている。荷物を受取り、入国手続、搭乗手続をせかさされ、一時間以上遅れて機内へ。ユーラシア旅行社、近ツリ、トラピクスの東日本、西日本と、日本の九寨溝ツアー客が乗り終えるのを待ち、ようやく離陸。暗闇の中に無数の機体が浮かぶ成都空港。意外と大きい。四川省の面積は四十万平米、人口は重慶を入れて1億3千万人、四川だけで日本一国のスケールだ。民度はトイレでわかる。空港のトイレへ。綺麗に掃除しているが臭い。扉を開けると生々しい物が。吐気を催す。

成都には空がなくても菜花咲く

一時をとっくに過ぎてホテルへ。歯磨きもそこそこに寝床に。モーニングコールを待たずに目覚めると曇天。成都の犬は陽が照ると一斉に鳴き出す、とガイドの馬さん。霽なのか、排ガスなのか？水蒸気だとすれば、水は豊かということになるが、日照不足が心配だ。

が、草木は青々とし、渋滞の市街を遠ざかるにつれ陽射しが強くなり、空も青味を増す。盆地で空気が悪いということなのだろうか？麦は既に苧り終り、菜種を苧る農民。脇に苗代がある。麦や菜種と稲の二毛作だ。春先にはさぞかし、菜の花が綺麗だろうと想像力が働く。標高3千mを越す仏教の聖地、峨眉山への道中、菜の花街道？では、手押し耕耘機一台、鋤を引く牛を数頭見るのみ。他は人手。急速にモータリゼーションが進む中国で、どうして農業の機械化、耕地整理による生産性向上、生産拡大が進まぬのだろうか？特に水豊かな江南で？人口圧力が強く、余剰労働力を産まぬようにするため機械化が進まないのか？高速道脇の小手鞠の白い花が美しい。

峨眉山雲厚く、幽谷険し

麓でグリーンバスというマイクロバスに乗換え、仙人が住むという世界遺産峨眉山へ。仏教の一大聖地で山西の五台山等と仏教四大名山の一、山全体が風景区。補助席入れても27人全員は乗れず、添乗員はタクシーで後ろから追いかける。標高上がるにつれ霞深く、樹間に白く赤く大輪の花をつけるのはシャクナゲか？カシミヤのセーターをGジャンの下に羽織り、3千99米の山頂まで百1人乗りケーブルカーで標高6百米を5分。雲海を突き抜けると青空。象に乗る金色の普賢菩薩の大仏が、雲海に浮かぶ。山頂に美しく咲くはやはり石楠花。重い荷を肩に、杖突き歩む破れズック靴の苦力。楽山泊。

楽山から成都に戻り、九寨溝へ

奈良の大仏の3.5倍の大きさの、岷江の断崖に刻まれた弥祿菩薩を水陸から見、来た道を逆に成都へ。成都近くは平原が続く。菜の花畑に小麦畑が混じり、コンバインが動く。麦の穂は菜種より短く色濃く、周りで沢山の人が働く。往路で見掛けなかった機械化された風景！来る時はこの辺は寝ていた！成都の市街地近くは耕地整理も進み、一区画が大きい。中国で初めて見たコンバイン。来る時見た地区とこの地区では農法、農地の大きさの差も大きい、多分農業所得の差も大きいに違いない。🍷の目が覚める？宝石屋に寄っても時間が余り、成都の空港の国内線のターミナルの売店にはビールもないので、暇潰しにレストランへ。ホテルのレストランでも大瓶10元のビールが、ここでは小瓶で30元！

雪山越えて九寨溝へ

夕方六時近くの予定が大幅に遅れ、せっかくの窓際の席だが日没後離陸。たった45分のフライトだが標高五百米の成都から、五、六千米の岷山山脈を越え、三千九百米の九黄空港へ。雲を突き抜けると、薄明かりの中に白く光る雪山が連なる。万年雪を頂く岷山山脈。雪山をかすめるように着陸する。ボーディングブリッジに立つ人影はオーバーコート姿。慌ててTシャツの上から長袖シャツとカシミヤのセーターを重ね着。それでも寒い。山道を二時間下りてホテル着は十一時近く。慌ただしく食事。ビールを求めるが冷えたのがなく、諦める。寝つけず持参のワンカップをあおる。

九寨溝の絶景をありがとう！

苦勞して辿り着いた九寨溝。天候には恵まれ絶景を楽しむ。我が白神山地の十二湖、青池のインクを垂らしたような、深く透き通った藍の美しさとは違った、エメラルドグリーンの多彩なバリエーションが続く。エメラルドの湖水のキャンパスに、雪山の白、広葉樹の黄と黄緑、針葉樹の濃緑と、木々の緑をそれぞれに映し、時に揺れ、時に輝く。見れば鱒が群れ、蛙の子がうごめく。湖はエメラルドの川となり、広がると思えば時に細く深く、

白く輝く猫柳や薄紫のつつじの島のあわいを流れ、滝となって白い飛沫を上げ、虹を造る。乾いた湖底に、遠くヤクの群れが見える。中国人民に多謝！絶景をありがとう！九寨溝泊。

黄龍死んで土と化す。地球温暖化の影響？

黄龍は今回のハイライト。二日続きの好天だ、ラッキー！高度六百米を八人乗りのゴンドラで5、6分上がり、横に二キロほど歩き最上流の五彩池へ。木道脇の棚田は枯れて黄色の地肌が露だ。幸い五彩池は水を湛えスカイブルーに輝き、水藻が濃いエメラルドになびく。畦の乳白色との対比が妙だ。東西にそびえる美しい雪山。麓まで四キロの木道を下る。水があれば見事だったろう棚田が、飛沫の飛ばない滝が延々と続く。トルコのパムッカレと比べ如何ばかりかと期待していたのだが、無惨に裏切られた。アフリカのキリマンジャロ同様、水源となる雪山の万年雪が後退しているのではないかと温暖化の影響か？対策は急務だ！中国は先ずは温暖化は先進国の責任だ！というが、中国自身にとっても差し迫った問題、今直ぐ手を打つべき問題である。

飛行機飛び立たず黄龍に泊まる

高地の山歩きにアルコールは禁物だ！と、多数の声。クスコのビールは美味しかったとアマダイが一人主張するも誰も飲まない。12時前に黄龍の登山口のホテルでお昼を食べ終え、山に登る。四時半に下山。集合場所の下山口のホテルのレストランで、10元の地の缶ビールにありつく。コップはないという。ホロ酔いで空港へ。標高四千米の峠越えの道が、山肌を葛折れに切り裂き続く。環境と開発、山肌の傷口の大きさに、思いは複雑だ。途中で羊かヤクか？油身の多い夕食をとる。わらびのお浸しにほっとする。7時半頃には空港へ。搭乗手続きを終えるが、上空の風のため成都からの折返し便が来ない。空港から夜の山道を30キロ走り、代替のホテルに着いたのは12時過ぎ。シャワーの湯も出ず、暖房もない。着の身、着のままで眠る。成都の五つ星のホテルで安眠していた筈なのに！

朝早く成都へ！熊貓に会えず！

寝る間もなく五時起床。持参のカップヌードルにお湯を注ぎ、六時半に空港へ。チェックインするが、飛行機はいない。昼には弁当が配られる。今日中に成都に着けるだろうか？明朝の北京便に乗れるか？不安が募る。飛行機を諦めバスの手配をする他の日本人ツアーも。三時過ぎにバスで帰ることに決定する。多少の不満が出るが、道中の岷江の溪谷美への賛嘆の声がかき消す。或いは三峡に、或いはマチュピチュへの道中に似たり。成都近くのトンネルを、12時前に通過しないと通行禁止になるという。トイレ休憩も大して取らず、山道を跳ねるように走り、片側交互通行の工事中のトンネルを、12時まで30分残し通過。反対車線は延々と車の列。11時間余りかけ、1時半頃ホテル着。予定通り日本に帰れる！風呂に入る。パンダには会えなかったが、九寨溝・黄龍の好天を良しとすべきか？

オリンピック乗り切りのウルトラC・・・黄土高原だより (NO.414・2007.05.11)

高見 邦雄 (緑の地球ネットワーク事務局長)

北京の水需給は、下手をすると年に10億m³も不足するそう。オリンピックとなると水使用量も急増するでしょう。で、河北省の4つのダムから水を引くことにしたそう。来年4月から年間3~4億m³。4つのダムというのは河北省石家荘市の崗南ダム、黄壁庄ダム、保定市の西大洋ダム、王快ダム。いずれも太行山とその麓にあります。「黄土高原だより」で何度か書いてきたんですけど、余りの突飛さに信じてもらえなかったかもしれません。

大同にきた中国林業局の幹部にその話をしたら、「デタラメを！」という顔をされたくらい。これは、「南水北調」の北京 - 石家荘段、という名前で突貫工事が進められています。南水北調・中ルートというのは、長江支流の漢江にかかる丹江口ダムをかさ上げし、そこから水路を建設、水不足の深刻な北京、天津に水を運び、同じように水不足が深刻な、河北省の石家荘などにも運ぶことになっています。完成は早くても2010年。オリンピックには間に合いません。黄河を横切るためのトンネル工事に手間取るよう。

南から水がこないのに、なぜ北京 - 石家荘間を急ぐのか？その秘密がこれ。水不足が北京以上に深刻な石家荘や保定の、なけなしの水を北京に運ぶ、石家荘や保定にとっては、南水北調で南から水がくる話が、水をとられる話に変わってしまった。でも今は、「オリンピック成功のために！」といわれれば、逆らうことは誰にもできない。最初にその話をきいた時、2006年末に竣工し、2007年年頭から使用開始予定でしたから、工事が遅れたよう。オリンピック開会は2008年8月ですから、2008年4月ではギリギリの線でしょう。綱渡りといってもいい。私に関心をもつには理由があります。石家荘の崗南ダムと黄壁庄ダムは、Hutuo河をせきとめています(この漢字、どうやっても表記できません)。この河は仏教聖地の五台山を南に回って河北省にでてきますけど、水源をずーっと辿ると、大同市渾源県の近くまでいきます。それから保定市の王快ダム。大沙河をせきとめているんですけど、この河の水源は大同市靈丘県の平型関のそばです。大西洋ダムは唐河をせきとめたダムで、この河の水源は渾源県南部にあり、その後靈丘県を突ききって河北省に流れます。4つのダムの水源は私達の緑化協力地の範囲内とその周辺にある訳です。

これまでも私は、大同は北京の水源だと言ってきました。桑干河、壺流河、洋河といった、大同の域内を流れる河がやがて合流して永定河となり、北京の水ガメ、官庁ダムに流入するのです。石家荘、保定の4つのダムの水が北京で飲まれるようになれば、今度は南回りの水系でも大同は北京の水源になります。なじみの深いのは唐河です。渾源から靈丘に向かう途中、この河に並行して道路があります。靈丘の県城から南部の上北泉村などに行く時、道路の横を流れています。靈丘自然植物園の前の上寨河は、少し下手で唐河に合流します。これらの河は、私がこの地方に通うようになってからでも水量が激減しています。地元の人たちの記憶はもっと鮮明で、河で水浴びしたことを話してくれたりします。今の水量はくるぶしくらいまでだったり、ですけど。もう一つは汚染が急速に進んでいることです。太行山をぬって流れるこれらの河川が、鉄鉱石の洗浄などで汚染され、酷くなることはあっても改善は簡単には進みません。

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク (GEN)

552-0012 大阪市港区市岡1-4-24 住宅情報ビル5F .06-6576-6181 FAX.06-6576-6182

E-mail gentree@s4.dion.ne.jp URL <http://homepage3.nifty.com/gentree/>

歴史哲学から見た日本文化・・・三鷹クラブ第73回定例懇談会

講師の武光誠さん(明治学院大学教授、1970入寮)をご紹介します。最近の学生にとってはもはや歴史上の出来事になったようですが、大学紛争のあおりをうけて1969年春の東大入試は中止になりました。東大の志願者は他の大学に流れたり、浪人を余儀なくされたりしましたが、武光さんも一年間迂回を強いられた人だったと記憶しています。入寮は、したがって翌70年です。

じつは私は、三鷹寮で武光さんがどのような生活を送っておられたのかあまりよく知りません。私は当初、南寮の現文研の部屋にいましたが、武光さんは木造の東寮、確か仏文研におられたのではないかと思います。しっかりと覚えていることは、たった一つです。私は入寮後しばらくして、ほとんど無理矢理に寮委員にならされましたが、ある日その仕事のひとつとして風呂掃除のお願いに東寮の一室までいきました。そのとき武光さんが応対に出られました。すでに武光さんが大物だということを聞いていたので、これがウワサの人物かと印象に残ったのです。

志望学科がふたりとも文学部国史だったので、その後教室でよく見かけるようになりしました。赤門を入るとすぐの史料編纂所という研究所が、明治34年から刊行し続けている『大日本史料』という書物があります。日本史の研究室には必備の編年史料集ですが、田舎の高校出の私はその名前さえ聞いたことがありませんでした。その何冊もの膨大なシリーズを、武光さんは「自宅にもっているらしい」という話がクラスの中にあり、あまりの格差に愕然とした覚えがあります。

本郷へ進学して古代史の井上光貞さん（のち歴史民俗博物館初代館長）に認められ、問題なく大学院へも進学し、同期の中で最初に職を得て本郷を巣立っていかれました。その後のご活躍はご存知のとおり。ご専門の律令制や古代天皇制だけでなく、神道、仏教、三国志、海賊、武士道、大阪商人、地図、地名、名字等にわたる、じつに幅広い著作活動を精力的に展開しておられます。最近では歴史哲学に関心を移しておられるようで、日本古代史や天皇制研究に確かな基盤を置いた雄大なお話がお聞きできるものと思います。

（1970年入寮 安田次郎記）

記

日時：平成19年7月23日（月） 18時30分～21時

場所：学生会館本館203号室（千代田区神田錦町3-28 03-3292-5931）

会費：5000円（会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み）

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

三鷹寮の新生歓迎会へ！グローバルネットワークの夢紡ぐ

4月8日（日）、三鷹寮で新生歓迎会開催。三鷹クラブで差し入れするから、鮨がいい？それともピザがいい？と、委員長の岡本君にメールすると、食べ物は十分用意してあるから、デザート系がいいと言う。最近の学生が余り飲まないことは承知しているが、どうしても甘い物を差し入れする気にならず、吉祥寺駅ビルロンロンで、持帰り鮨店の鮨を三万円で買占め？タクシーで三鷹寮の新生歓迎会へ。

我々の頃は2学年で3百人、一室8人の相部屋だったが、シャワー、ミニキッチンつき個室に、6百人が住む。留学生と女子が各2百名。二百人以上の寮生で狭い共用棟は立錫の余地なし。自治委員会が用意した食物は直ぐ底をつき、持参の鮨もテーブルに並べられるが、瞬間になくなる。一緒に参加した、寮の近所に住む1年先輩の辰さんが、持参の財布からも万札を引き抜き、宅配ピザを手配するが焼石に水。食べ物がなくなっても、インドネシア、モンゴル、チャイニーズなど、入り混じって、楽しい語らいが続く。

寮委員、それにダイレクトに入試を受けて合格したという瀋陽の高校の日本語クラスの

グループのチャイニーズやモンゴルの留学生グループ等と、あらためて事務所でコンパすることを約束して、昔ながらの欠食児童？の寮生の食欲に圧倒され？腹ペコの☘は、三鷹駅ビルロンドンの常寿司へ。一人鮓を摘みながら杯を重ねる。留学生と日本人学生をつなぎ、三鷹クラブのグローバルネットワークを作り、万国の留学生OBを訪ね歩く、リタイア？後の夢を紡ぐ。

若い諸君と事務所でコンパ！風呂が欲しい！

5月連休明け、18日（金）に手作り？おでんに、ピザと鮓で、遅くまで若い諸君と歓談。日本人の寮委員が男8名に女子2名、母国の大学を中退、文に留学の27才のアメリカ人が1人。委員でない上海の女子留学生一人。S43年入寮の井上豊君と日本に帰化した中国人留学生OBの三王夫妻も参加。最大16名、昔の寮のコンパの雰囲気でも盛り上がる。

風呂が欲しいという声も上がる。今まで、不満はあっても、こうして欲しいという要望が出ることはなかった。個室には洗面、トイレ兼用のシャワーブースがあるので、留学生には十分のようだが、湯船につかれないのは日本人学生には物足りない。近くの銭湯新川湯も今はない。民間資金も導入したりしながら、本郷の寮を豊島寮に集約するプロジェクトが進んでいるが、2百人収容の高層棟を2棟作り、千人の寮にする、下層に2棟をつなぐ共用棟を作り学習環境を改善するという、三鷹国際学生宿舎のプロジェクトもそろそろ完成させて欲しい。欧米の留学経験者からは、自分達が提供された寮の勉強環境に較べ東大のそれは貧弱で、恥ずかしいという声を聞く。OBも協力するのに吝かではない。

新しい寮委員会が成立したという、岡本前委員長からの連絡を受け、6月26日（火）に新しい寮委員9名を招き、事務所で激励コンパ。平賀代表、井上豊君、学生宿舎になってから入寮の三野功晴君のOB4名。いつものようにおでん作り？ピザと鮓を取り、7時から11時まで、1951年入寮の平賀三鷹クラブ代表から、孫のような07年入寮の一年生まで、世代超えて談論風発。OBの経験を寮生に伝え、自治会活動が少しでも活発になり、寮生活が充実すれば！委員の絆強まりスキルアップ、有為の人材として成長、やがて社会のために活躍してくれればと思う。

参加した寮委員は吉本 進（2007年入寮・理科二類・真和高校）、本間 郁絵（2007・理科二類・岡山白陵高校）、荻原 ゆかり（2007・文科三類・大垣北高）、西川 清照（2007・文科三類・西大和学園）、滝野 恭平（2007・文科三類・江の川高校）、名取 龍一（2007・理科二類・磐城高校）、岡本 和也（2006・理科一類・岡崎高校、前委員長）、田代 勇太（2007・理科一類・福岡高校）、福丸 裕樹（2007・理科二類・宮崎西高校、新委員長）。若いOBとして三野 功晴（1994・文科三類・六甲・国立国会図書館調査員）君も参加、新委員に色々アドバイス。

終わりに

社長歴はアマダイの方が長い！？が、小野寺住友不動産社長の活躍が楽しみだ。今回のカモメール当選番号は下二桁61番です。封筒の表に記された番号の末尾が61番の方には、小野寺君の故郷でもある白神の夏の海の特産品がプレゼントされます。お楽しみに！再見！